
随筆、早退計画。

ハルメク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

随筆、早退計画。

【Nコード】

N7262A

【作者名】

ハルメク

【あらすじ】

ぼくは学校を早退した。これはぼくにとって重大な事件なのだった。

国際的緊張や夏の嫌らしい暑さが混沌とした空気を作り出している今日という7月12日の昼に近い時刻。

ぼくは学校を早退した――。

今週の月曜日から風邪をこじらせていた。

喉の痛みと咳、気だるさに頭痛、発熱という典型的な風邪の症状がぼくの体に現れていた。しかし受験生であるぼくは、いくら実のないう我が***高校の授業といえども欠課にするわけにもいかず病は気から、受験は基礎基本が大事と自分に言い聞かせ、病魔に冒されつつある体を引き吊り学校に登校したのだった。

しかしぼくにとつての学校は体力だけではなく精神力をも疲弊させてしまう場所であるので、月曜日は苦痛の一日だった。家に帰り母に風邪薬を貰いそれを飲んで火曜日の午前一時まで受験勉強をした。

朝起きてみると、薬の効能により気だるさと頭痛は治っていた。しかし喉は治っておらずまだ少し熱もあるようだった。しかしそんな体に鞭を打ちぼくは登校した。

精神的にも体力的にも疲弊したぼくは放課後に図書室へと行き一時間程勉強をした。これはぼくの習慣である。勉強を済ませると電車に乗り学習塾へと向かいまた勉強をした。

勉強づけの一日を終え帰宅し、良く効く液体漢方薬を飲んだ。そして水曜日、つまり今日の午前二時半まで受験勉強をした。

遅くまで勉強をしたためか三時間半しか寝ていなかったためか喉の症状が悪化していた。朝、家を出る時に漢方薬を飲んだ。一時間目の授業は楽に受けられそうだ、と思っていたが吐き気になやまされることがになった。その他は特に目立った症状はなかった。少し咳が

出るだけだった。

次の時間が体育だった。これは失敗だったと思う。サッカーをやってしまったのだ。それなので汗をかいてしまい、咳も頻繁に出るようになった。吐き気もした。

ぼくは後の授業に出られる自信が無くなり保健室に行き熱を計り先生に早退を促されたので早退した。

――そして今ぼくは誰もいないローカル線の乗り場にあるベンチに座りこの随筆のようなものを書いている。色々帰るための都合を合わせるための連絡を家にし終わったところだ。

早退するのには負い目がある。学校の奴らに陰口を言われるのがイヤなのだ。

「あいつ学校辞めるんじゃないやねえ」

「もう戻ってこないんじゃないや」

「あーあ、いじめ過ぎたなあ」

。

止めて欲しい。ぼくは風邪なのだ。それに日曜日には京都に行かなくてはならないのだ。大学のオープンキャンパスに行くのだ。万全の状態ではぼくは大学の敷地に足を踏み入れたいのだ。大学とのファーストコンタクトなのだ。

ぼくは命を賭けて敢然と立ち向かう。

そしてぼくは立ち上がり電車に乗り込むだろう。電車で揺られながら思索に耽りながら、終点の町に行き着くだろう。

p r o j e c t

>了<

t h e s o u t a i

（後書き）

良ければご感想を

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7262a/>

随筆、早退計画。

2010年11月12日17時04分発行